

# ちば里山新聞

(第14号)

編集 発行 ちば里山センター  
袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148  
電話 0438-62-8895  
題字 倉島 真浩  
(ワークホーム里山の仲間たち)



里山活動を一層促進させるため、すそ野を広げる。

## 「千葉県里山の保全、整備及び活用の促進に関する条例」の一部改正について

### 改正の背景とねらい

千葉県の里山は、多様な生き物の宝庫であるとともに、森林、谷津田、水辺等が一体となって美しい景観を形成していますが、近年、人々の生活様式や農業生産方法などの変化により、人との関わりが薄れ、その良さが失われつつあります。

そこで県では、平成15年5月に「千葉県里山の保全、整備及び活用の促進に関する条例」を施行し、県民、里山活動団体、里山所有者と協働のもと、里山の保全、整備・活用を図ってきました。

その結果、現行の里山条例に基づく里山活動協定の認定件数は平成19年11月末日まで77件、協定について認定を受けた里山活動団体は60団体であり、このうちNPOが14団体、任意団体が42団体、企業内ボランティア2団体などとなっています。過去の実績から見ると、毎年15団体程度が里山活動協定を締結し、県の認定を受けていますが、さらに里山活動のすそ野を広げていくことが必要です。

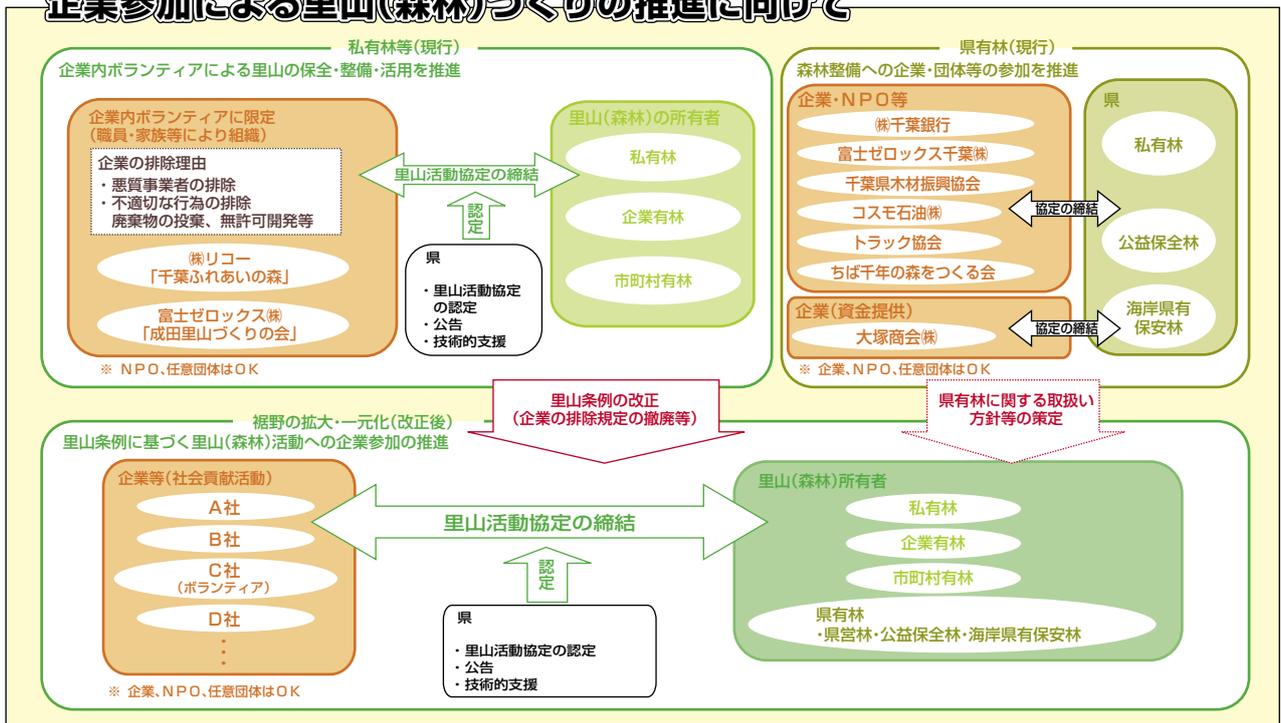
一方、近年、環境に着目した社会貢献活動の一つとして、里山への取組みが企業のCSRとして評価されるようになってきており、企業にとっても里山活動への参画は有益なものとなっています。

さらに、千葉県経済協議会の調査によれば、森林・緑地の保全活動に興味を持っている企業も多く見受けられるなど、企業による里山活動への機運が高まってきています。

また、企業の人的、経済的支援の波及効果により、活動団体の増加も見込まれ、一層の里山活動の推進が期待できることから、企業の参加を積極的に促していくことが必要かつ効果的であると考えられます。

このため、現行の里山条例においては、企業等は里山活動団体として認められていないことから、平成19年9月定例県議会において「千葉県里山の保全、整備及び活用の促進に関する条例」の一部を改正し、企業の参加を推進することにしました。

## 企業参加による里山(森林)づくりの推進に向けて



## 改正の概要

改正の内容は次の2点です。

### 1 里山活動団体の定義の改正（第2条関係）

（解説）営利を目的としない旨の要件を廃止し、「企業」も含めた多様な主体を里山活動団体とした。

（改正後の条文）

二 里山活動団体 里山の保全、整備及び活用に係る活動を積極的かつ主体的に行う 団体をいう。

### 2 認定の要件の改正（第17条関係）

（解説）多様な主体の参入を認めることから、想定される悪質事業者を排除し、実害の防止及び認定制度の信頼性の確保を図るため、認定の要件を追加した。

（改正後の条文）

五 里山活動協定に係る活動が、継続して、かつ、基本理念にのっとり適切に行なわれると認められるものであること。



## ～ちば里山センターの出来事～

### 【環境NGOと市民の集い講演発表】 2007. 10. 28 (日)

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金部主催の「環境NGOと市民の集い 関東ブロック大会」（東京農業大学世田谷キャンパスに於いて）が開催されました。ちば里山センターは地球環境基金の助成金を19年度から3年間受ける関係から、自然保護をテーマとした分科会で「千葉県里山条例」と「ちば里山センターの活動」について発表しました。

地球環境基金は、地球環境問題の深刻化とNGOと呼ばれる民間団体の取り組みの重要性を踏まえ、1993年に創設。環境保全活動を担う民間団体を助成する唯一の公的な実施機関であり、環境保全活動に対する助成団体としては、国内最大規模です。一般市民等多数参加の中で、企画運営にたずさわった現役大学生の熱い想いや、里山活動の担い手として、頼もしさを感じました。



パネルディスカッション



講演



マッチングタイム

### 【里山の草刈りと民謡のコラボレーション】 2007. 11. 18 (日)

「民謡が流れる里山で楽しく草刈り体験」が「桜宮自然公園をつくる会」で実施されました。「桜宮自然公園をつくる会」は2006年環境省・読売新聞「全国里地、里山30選」や農林省「田圃自然再生コンクール」入選等を受賞しています。今回初体験の試みとして、民謡と草刈りを同時に行いました。ブルーシート、青竹、集荷箱等日頃農作業で使用している道具が特設ステージに変身し、プロ民謡歌手原田英昌先生や、地元民謡会の方々を招き、生の歌声が森に響き渡りました。野外作業で疲れた体に吸い込まれるような響きと、体内波長（ゆらぎ感）が民謡には有ることを実感出来ました。



プロ民謡歌手原田英昌社中の生徒による踊り



大カマによる草刈り



原田歌手の生唄で参加者との踊り



**【ほたるの幼虫を放流】 2007. 12. 1 (土)**



君津市豊英の清和県民の森「ほたるの里」で、ほたるの幼虫を放流しました。

気候変動、クリーンエネルギー及び持続可能な開発に関する閣僚級対話が（平成20年3月14日～16日幕張メッセに於いて）予定されているなか、環境問題を身近に体験してもらおうと、地元周辺の小、中学校から代表者を募りまし



た。「ホタル里の会」のメンバーと共に草刈りを行ない、源氏蛍、平家蛍の幼虫を、放流しました。生まれて初めてほたるの幼虫を手にした生徒が大半で、恐る恐るの放流作業でした。来年5月頃の再会が楽しみです。午後から木工教室（清和県民の森：木のふるさと館）に於いて、間伐材を利用し、手作り工作（ペン立て）を行いました。夢中になって作った作品は世界でひとつだけのものです。お土産として持ち帰りました。



**【森づくりコミッション中央研修会講演】 2007. 12. 15 (土)**

「森づくりコミッション中央研修」（主催：社団法人国土緑化推進機構）が江東区夢の島にある東京文化スポーツ館で開催されました。

多様な主体が参加した森づくり中間支援組織の一例としてちば里山センターが、各都道府県の中間支援組織づくりを目標にされている方々に、成り立ち及び活動内容や今後の展望を発表しました。活動資金調達の困難状況、会員の増加（後継者含む）を促す手立てなど各都道府県も同様な問題を抱えている事が分かりました。



**【親子も参加里山再生活動体験】 2007. 11. 11 (日)**



市原市米沢「米沢の森を考える会」の山桜群生地周辺に於いて、里山再生活動体験を行いました。

自然観察指導員3名と共に、森の生物が共存して生き抜いている話を聞き「なるほど、ほんとうだ、すごい」などの感動と驚きの連続でした。自然観察指導員の方々の説明はまだまだ沢山あるそうです。次回の楽しみが増えました。前日雨の為、ふもとの駐車場はかなりぬかるみでしたが、米沢の森の遊歩道は「米沢の森を考える会」のメンバーによって日頃から足場の確保が良く整備されていたのでほんとうに助かりました。



**【スズメバチと遭遇技術研修】 2007. 11. 15 (木)**



東金・成東の ワタミフィールド（山武市板川地先）に於いてチェーンソー安全講習を実施しました。

11月とは思えない汗ばむくらいの日和で始まりました。森の中へ入るとスズメバチの巣を2コ発見し、実技の中断を余儀なくされました。里山活動では、予想外の場面が発生します。無理をせず、安全の確保を優先する事を日頃から心がけて活動しましょう。ワタミの森でチェーンソーを手にしなが



ら「自分で出したCO2は自分で」をモットーに森の機能回復、活性化に貢献。安全講習後、全員で、伐倒、玉切り・・・使用機具の手入れまでを実施し「この体験を仕事場へ持ち帰ります。」と力強いワタミ社員の声でした。



**【大学生里山ボランティア体験】 2007. 12. 10 (月)**



新浦安にある明海大学のキャンパスで学生を対象に「ちば里山の現状と課題」をテーマに、ちば里山センターが発表しました。

同時に明海大学の学生が「市原米沢の森を考える会」で実施した里山ボランティア活動の報告会も行われました。（9月9日～12日の4日間安全教育、下草狩り作業、竹林伐採、除伐の作業を体験した。）

今後、できるだけ多くの学生に里山活動に参加してもらう為、夏休みを利用した里山講習会などを来年度検討中です。



# 会員団体紹介

## 養老溪谷ふる里を守る会

私たち養老溪谷ふる里を守る会は、平成13年大多喜町主催の人材育成研究会（当初、会員21名）で勉強会、視察研修を重ねる中で養老溪谷の自然保護、景観の保全、遊休地を活用し、地域振興に寄与しようという気運が高まり平成16年賛同者42名で設立いたしました。

活動開始当初は、草刈機、チェーンソー等初めて使用する会員が大半での真夏の荒廃地の竹林除去、雪降る中での大木の伐採、蜂や蚊、山ビルとの戦いの草刈と苦勞する作業の連続でした。

そんな整地、清掃した里山に地主さんの大なる理解をいただき、平成16年千葉県里山活動協定を締結、大多喜町と共に活動に助成、助言、指導をいただきながら、梅、桜、もみじ、紫陽花、ツツジの植栽も終わり、訪れてくれる人の笑顔、地元住民の励ましの言葉を喜びとして会員一同5haの山林、里山の整備、管理に汗を流しております。

メンバー構成も造園業、農業者、サラリーマン、公務員、サービス業、商店主又年代も30才代～60才代と様々で作業内容で指揮者が変わり、休憩時には年配者から若手への自慢話、経験談があり、会の活動の域が広がり、真の人材育成、後継者育成にもつながっています。

都市と地方の格差や所得格差などいろいろ言われておりますが、地方の特色を生かした活動が何よりも大切だと信じて活動を続けています。

戦後50年は地方から中央へ向かった時代、これからの50年は再度地方に目が向けられる時代だと思い、私たちも再度村づくりから始めるつもりで里地、里山の整備、保全、活用を行って行きたいと思っています。

（文：太田政美）



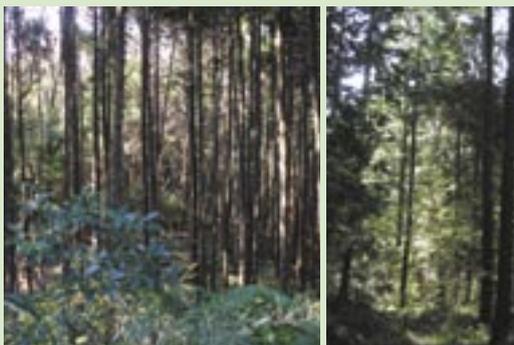
わたしのまちの応援団に掲載された時の記念撮影

### 養老溪谷ふる里を守る会の概要

代表	設立年月日	会員数	活動地	活動日
太田政美	平成16年 4月7日	42人	大多喜町葛藤 (養老溪谷)	定例 : 月2回 臨時 : 随時

## 里山情報バンクの紹介

今回は、安房地区の紹介です。



### ◆里山情報バンク整理番号08-05-02

場所・面積：南房総市珠師ヶ谷（JR南三原駅から車で20分）  
約0.4ha 林道皆倉線に入って200mほど先の林道沿いの「教育の森」の看板がある所。路駐5台可能  
内容：林道沿いの「教育の森」の看板脇に森への小道があります。その小道沿いに、40年生のスギやヒノキ（直径20～30cmほど）が植えてあり、地況は、平坦ばかりではないが緩やかな勾配の土地で、作業しやすい現場となっています。所有者が少しずつ手を入れているが、除伐・間伐等の継続管理を希望しています。



林内の状況

### ◆里山情報バンク整理番号08-05-04

場所・面積：鴨川市南小町（JR鴨川駅から車で20分）  
約0.3ha（「みんなみの里」から車で5分）  
内容：国道410号線から500mほど入った東向き斜面の森林で、15年生位（直径10～15cmほど）の杉林です。まだ若い林なので、管理しがいがあります。元水田だったため、平坦地が約80%と、作業しやすい状況です。ただ、管理がなかなかできないので、毎年隣地から竹が進入しており、竹伐の必要があります。また、面積が少ないので、少人数のグループでも作業ができます。所有者は、枝打ち・除伐・間伐の継続管理を希望しています。